

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化	①/②	11117	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
尾崎 秀夫	選択	2			

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教に关しても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

1. 導入
2. 聖書と歴史
3. 出エジプトと歴史研究(1)
4. 出エジプトと歴史研究(1)
5. 古代における宇宙観
6. 古代における天動説と地動説
7. 中世における天動説
8. コペルニクス(1)
9. コペルニクス(2)
10. ジョルダノ・ブルーノの地動説
11. ガリレオ・ガリレイ(1)
12. ガリレオガリレイ(2)
13. 科学の発達とキリスト教
14. 聖骸布
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めない。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ	ET	11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人/佐伯 瑠璃子/吉野 美智子/酒井 新一郎/有村 理	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)オリエンテーション
- (2)言語1
2. (1)言語2
- (2)オリエンテーション(体育室)
3. 図書館案内
4. (1)言語3
- (2)言語活動(PC使用実践)
5. (1)言語4
- (2)言語活動(PC使用実践)
6. (1)社会1
- (2)学生生活(学生相談)
7. (1)社会2
- (2)学生生活(課外活動1)
8. (1)社会3
- (2)学生生活(課外活動2)
9. (1)社会4
- (2)言語活動(PC使用実践)
10. (1)数学1
- (2)言語活動(比較分析)
11. (1)数学2
- (2)言語活動(情報収集法)
12. (1)数学3
- (2)言語活動(PC使用実践)
13. (1)数学4

(2)言語活動(発表力)

14. (1)確認試験1
- (2)おもてなしとマナーについて
15. (1)確認試験2
- (2)ホスピタリティー研修事前指導

授業の方法

演習形式
後半は言語活動、クラス討議や研修を行う

準備学修

テキストでしっかり予習・復習すること。eラーニングで学ぶこと。準備学修には60時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ	PC	11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石島 多恵／森 晴美／中園 佐恵子／渋谷 美智	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に着けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
2. (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
3. 図書館案内
4. (1)言語3
(2)クラスでの自己紹介
5. (1)言語4
(2)授業の受け方
6. (1)社会1
(2)学生生活(学生相談)
7. (1)社会2
(2)学生生活(課外活動1)
8. (1)社会3
(2)学生生活(課外活動2)
9. (1)社会4
(2)理解と表現(作文など)
10. (1)数学1
(2)理解と表現(比較分析)
11. (1)数学2
(2)リサーチの方法(情報の集め方)
12. (1)数学3
(2)リサーチの方法(レポートの作成)

13. (1)数学4
(2)簡単なプレゼンテーション
14. (1)確認試験1
(2)マナー
15. (1)確認試験2
(2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務j課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	ET	11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人／佐伯 瑠璃子／吉野 美智子／酒井 新一郎／有村 理	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)言語1
(2)言語活動(PCの使用実践)
2. (1)言語2
(2)言語活動
3. (1)言語3
(2)言語活動
4. (1)言語4
(2)共同作業
5. (1)社会1
(2)共同作業
6. (1)社会2
(2)言語活動(PC使用実践)
7. (1)社会3
(2)言語活動
8. (1)社会4
(2)言語活動
9. (1)数学1
(2)言語活動
10. (1)数学2
(2)言語活動
11. (1)数学3
(2)言語活動
12. (1)数学4
(2)言語活動(合唱練習)

13. (1)確認試験1
(2)言語活動(ディスカッション1)
14. (1)確認試験2
(2)言語活動(ディスカッション2)
15. (1)確認試験3
(2)言語活動(PC使用実践)

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかりと、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人権教育論			11373	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	市教委人権同和教育室指導主事			

授業の到達目標
 人権教育の基本的な概念を学習し、人権感覚を高め人権学習の実践力を養う。そして学校での人権学習の具体的な指導法を考察する。さらに人権学習の指導案を作成し実践的な模擬授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティーⅠ（知性）を養い、プレゼンや模擬授業、ロールプレイを体験する過程でK（思いやり）の諸能力を生かします。

授業の概要
 毎回配布するレジュメ・資料を中心に授業を進める。人権感覚を磨く方法や、人権教育の在り方について考察し、実際の取り組み方を学ぶ。

授業計画

1. 人権とは(人権感覚、考え方)
2. 偏見と差別
3. 人権・同和教育とは
4. 人権尊重の教育
5. 子どもの人権Ⅰ(虐待、体罰、子どもの安全)
6. 子どもの人権Ⅱ(いじめ、不登校、権利条約)
7. 学校における人権学習Ⅰ(学習権、個性)
8. 学校における人権学習Ⅱ(複数指導、生活科)
9. 人権教育指導実践Ⅰ(項目別)
10. 人権教育指導実践Ⅱ(資料研究)
11. 人権教育指導実践Ⅲ(人権ゲーム、ロールプレイ)
12. 阪神淡路大震災と人権
13. 人権学習のコラム
14. 諸外国の人権教育事情
15. 人権教育の課題、まとめ

授業の方法
 講義を中心に発表やロールプレイも取り入れ、模擬授業を実践してもらいます。

準備学修
 世界中で報道される人権問題に関心を持っておくこと

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 やむをえず欠席する時は事前事後に届け出ること。

参考図書
 授業の中で適宜紹介します。

留意事項
 ロールプレイやゲーム等で人権感覚を磨く訓練をします。

教員連絡先
 mhori@kaisei.ac.jp

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会科学概論			11377	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	選択	2	私立中学校教員(社会)、私立高等学校(世界史)			

授業の到達目標
 本授業では、歴史学のあり方について学ぶ。歴史は小学校から高校まで必ず学ぶ科目であるが、暗記科目と見られることが多い。歴史学者が史料に基づいて如何に過去を明らかにしていくかを体験させる。この授業では、KAISEIパーソナリティのⅠ（知性）とⅡ（国際性）を養う。

授業の概要
 歴史は決して暗記科目ではなく、史料に基づいて過去を再構成していく営みである。先行研究の成果である通説と対峙しつつ、修正・変更を加えて新しい通説を構築していくのが歴史学の進歩である。本授業ではヨーロッパ中世の開幕に関する諸説を、ビレンヌ理論を中心に紹介し、そのような歴史学の営みを受講生に体験してもらいたい。

授業計画

1. はじめに、歴史学とは何か
2. 時代区分について
3. ゲルマン民族の大移動
4. 古代文化没落説
5. 古代文化連続説
6. ビレンヌ理論の概要
7. 民族大移動後の地中海世界
8. 民族大移動後の地中海商業
9. イスラム教の成立と発展
10. 地中海商業の衰退
11. 地中海商業衰退の政治的影響
12. カール1世の戴冠と西欧世界の成立
13. ビレンヌ批判(デネット・ジュニア)
14. ビレンヌ批判(ポーリン)
15. まとめと試験

授業の方法
 講義、討論、演習形式。

準備学修
 授業内容の背景を知るため、古代ローマ史やキリスト教史に関する書物を読んでおくこと。(60時間)

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 通常欠席が5回を超える場合は受験資格を認めない。

テキスト
 テキストは特に定めない。随時、史料のプリントを配布。

参考図書
 とくに指定しない。

留意事項
 私語は慎み、求められたときは積極的に発言すること。

教員連絡先
 ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (キッズ)			13809	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育士			

授業の到達目標

教職の意義や教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例などから学校教育に期待される役割や今後の教員に求められる資質能力について学び、自らの適性を見出す。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し、調査・発表の機会をもつ。チームとして諸課題に対応する学校の在り方や教員の職務内容、服務上や身分上の義務について理解し、自ら目指す教師像を明確にもつようにする。

授業計画

1. 「教職概論」科目の特性と概要
2. 教職の意義
3. 幼稚園教育と小学校教育
4. 教員の歴史、女性と教職
5. 学校の組織と運営
6. 教員の職務内容
7. 教員に課せられる服務上・身分上の義務と身分保障
8. 学び続ける教員へ(教員のライフステージと研修制度)
9. 国際化・情報化と教員の役割
10. 学校における社会体験とキャリア教育
11. 様々な問題行動とカウンセリングマインド
12. 特別な支援を要する幼児・児童への対応
13. 学校(園)・地域・家庭の連携と役割
14. チーム学校の意義と実際について
15. 今後の教員に求められる資質能力(専門職としての教員)まとめ
を行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。またリフレクションシートや自修シート他の作成により、自己の考えを深め、知識の定着を図る。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①リフレクションシートや課題レポートの提出を2回求め、講義中にフィードバックを行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

古橋和夫(編)『新訂 教職入門 未来の教師に向けて』2018年(株)萌文書林

参考図書

秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣
アルマ
文部科学省『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

留意事項

保育士資格と幼稚園教員免許の併有による「保育教諭」としての要請も高まりつつある。教員を目指す学生としての意識を高くもって授業に臨んでほしい。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (中高)			13809	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	公立中学校教員			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を学ぶ。教員の資質能力と職務内容について身に付けることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

学校教育や教職の在り方について理解し、教員の資質や能力の向上、研修方法について学ぶ。さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の公教育の意図を考察する。

授業計画

1. 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義
2. 教員の服務と義務
3. 学校制度の変遷と教員養成
4. 公教育の目的と教員の役割
5. 学校の組織と運営における教員の役割
6. 教員の研修の意義と制度
7. 教員に求められる資質能力
8. 教科と教科外の指導
9. 教師力と教員の評価
10. 学校種間の連携、部活動指導での教員の役割について
11. 地域社会との連携における教員の役割
12. 教員の人権感覚
13. チーム学校の在り方と危機管理
14. 教職とボランティア活動の関係
15. 職業としての教職の在り方

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートやレポートにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

準備学修

指示された資料を事前に読んで理解したり、中等教育関連の情報を積極的に収集すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

文部科学省編「小学校学習指導要領解説(総則編)」最新版
文部科学省編「中学校学習指導要領解説(総則編)」最新版

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

教員連絡先

mhorii@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	ET	13815	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	学校心理士、公立小教員		

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
2. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
4. 幼児期から青年期において、社会性の発達
5. 幼児期から青年期における現代の発達課題
6. 認知発達、認知機構の変遷
7. 主体的な学びの開発と体系化
8. 主体的、対話的で深い学びの実践例
9. 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
10. 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
11. 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
12. 学習成果の可視化
13. 主体的な学習、思考力を育む学習集団
14. 発達障害の理解と支援
15. まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』 株式会社ERP

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程論	ET	13850	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	2	市教委指導課指導主事		

授業の到達目標

学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程について学ぶ。この教育課程の意義や編成の方法を理解し、カリキュラム編成の基礎を習得することで、カリキュラムマネジメントの意義や重要性を考察する。そして、総合的な学習の時間について実際の学校での実践例を参考に、自らも教育課程の模擬編成を試みる。この講義ではKAISEIパーソナリティ-I（知性）を養い、自ら考察した教育課程をプレゼンテーションする過程でA（自律：発信力）を習得する。

授業の概要

教育課程の原理を学ぶ中で、公的な性格を有する学習指導要領の意義を考察する。そして、総合的な学習の時間の変遷や教育課程の歴史等において諸外国との比較をしながら現行の特徴や各時代の改訂の意図を考察する。最後に総合的な学習の時間を中心とした教育課程の模擬編成も試みる。

授業計画

1. はじめに、教育課程とは
2. 教育課程に関する法制度について
3. 教育課程の歴史について（前半）
4. 教育課程の歴史（後半）と総合的な学習の時間の誕生について
5. 中学校・高等学校の教育課程について
6. 総合的な学習の時間の実践例（前半）
7. 総合的な学習の時間の実践例（後半）
8. 総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメントのあり方
9. 教育課程の編成と学校教育評価について
10. 学校種間の連携と教育課程について
11. 地域社会との連携と総合的な学習の時間のあり方
12. 今日的な課題と教育課程の関係
13. 諸外国の教育課程と教育課程の模擬編成（前半）
14. 諸外国の教育課程と教育課程の模擬編成（後半）
15. 教育課程のプレゼンテーションと未来の学校教育における教育課程の考察

授業の方法

レジュメに従って授業を行い、毎回レポートの提出を求める。

準備学修

文部科学省HPより、「教育課程特区」の情報を検索し、読んでおくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（総則編）」最新版
文部科学省編「中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）」最新版

参考図書

文部科学省編「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）」教育出版

留意事項

毎回の授業中に資料等を配布する。

教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	ET	13851	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	2	市教委指導課指導主事		

授業の到達目標

学校教育の研究、教育課程、生徒理解、指導方法、教育評価について理解し、授業の設計技術を習得する。この講座ではKAISEIパーソナリティのI（知性）を学び、計画力、想像力を養います。さらに、模擬授業でディスカッションや発表を取り入れてA（自律：発信力）、K（思いやり：傾聴力）をつける訓練をする。

授業の概要

学校教育の理念に基づいて、教育課程の理論、学習指導要領の仕組み、授業実践の知識及びその技術を学ぶ。また、実際の学校での教育実践例を参考に学校教育の課題を考察をする。

授業計画

1. 教育方法学の歴史
2. カリキュラム論
3. 学習指導要領について
4. 教育課程と教科外(総合的な学習の時間、特別活動)の授業の役割
5. 教科書と学校教育の関係
6. 授業の構造論
7. 学校における集団学習の意義と方法(組織、計画、指導体制)
8. 教育技術論
9. 情報教育の内容と構成について
10. 授業の方法と実践について
11. 学力論と教育評価について
12. 特別支援教育論
13. 模擬授業実践と考察(職業体験学習)
14. 模擬授業実践と考察(修学旅行)
15. 教育方法学のまとめ

授業の方法

毎回レジメを配布し授業を進め、レポート作成やロールプレイに取り組む。

準備学修

中学校学習指導要領（総則編）を読んでおくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること

テキスト

文部科学省編 「中学校学習指導要領解説（総則編）」最新版

留意事項

授業中に配布した資料をもとに毎回レポートを作成する

教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp

展開科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論（中高）		13853	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	2	中学校教育研究会研究部会長		

授業の到達目標

社会の変化が学校教育にもたらす影響、そこから生じる課題や教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムのあり方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。学校教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、学校における危機管理の在り方を学ぶ。

授業計画

1. 学校教育と公教育について
2. 教育行政の仕組みについて
3. 教育改革の歴史概要
4. 学校教育における法制度について
5. 学校の組織と運営について
6. 学校における教員の在り方について
7. 学校経営と教師力
8. 学校と地域の連携について
9. 学校教育の評価について
10. 変容する子どもの生活と教育的な課題
11. 安全教育・安全管理の取り組み
12. 学級経営の効果的な指導法について
13. 災害時に学校が果たす役割について
14. 学校における危機管理のあり方
15. 開かれた学校づくりについて・まとめ

授業の方法

レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べたり、レポートを作成したりすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること。

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（総則編）」最新版

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。

教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリング)を含む)	教職中等		13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

中高の児童・生徒が自己理解を深め、さらに他者受容へとつなぐ受講生に子どもの心理的な特徴や課題を引き出し支援する基礎的な知識と技術を身につけるようになることをめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）を養う。

授業の概要

日本には数多くのカウンセラーの資格があるが、来談者が望んでいることは、心の叫びやつぶやきをきちんと受け止めてくれることであろう。対人専門職をめざす者は、現在の主たるカウンセリング理論を概観した上で、自分に合ったスタイルの技法を学び続けてほしい。授業では、事例を多く採り入れて、実践に生かせるよう学習する。

授業計画

1. 学校での教育相談を学ぶにあたってその意義を理解する。
2. 学校独自の課題の把握の必要性を学ぶ。
3. 傾聴、共感など学校におけるカウンセリングマインドキーワードについて知る。
4. カウンセリングマインド等教育相談に必要な基本を体験する。
5. 学校でのいじめで、児童・生徒のシグナルや早期発見方法を理解する。
6. 個々の問題行動の本質理解に必要なカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーションを体験する。
7. カウンセリングを通じて自己理解、他者受容する技術について知る。
8. 気持ちの良いクラスづくりには欠かせない相互受容の大切さを理解する。
9. 学級内を明るく気持ちの良い雰囲気にするための心理教育を体験する。
10. 非行・問題行動の善後策としての保護者への対応の仕方を理解する。
11. 学級崩壊が生じたときの教育相談としての役割を理解してその教育技術について学ぶ。
12. 学校で虐待を発見する手立て、確認した後の動きや支援の在り方を学ぶ。
13. 児童・生徒の発達課題を学び、保護者相談に生かせるように事例

から学ぶ。

14. 不登校などの問題を一人が抱え込むことがないように校内体制の整備計画について学ぶ。
15. 学校だけでは支援しきれない事案に備えて地域の医療、福祉等専門職との連携の必要性を理解する。
講義後に試験を実施

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけではなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職中等		13829	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	市教委指導課指導主事			

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を学習し、道徳的な実践力を養う。さらに学校での道徳教育の指導法を考察し、道徳教育指導案の作成と授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティーI（知性）を養い、プレゼン等の過程でK（思いやり）の諸能力を生かす。

授業の概要

レジュメを中心に教科書「中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）」を参考資料に授業を進める。道徳教育の在り方について考察し、実際の取り組みについて学ぶ。

授業計画

1. はじめに・道徳教育の基礎理論
2. 道徳教育の歴史(江戸～明治～戦前)
3. 道徳教育の歴史(戦後～現代)
なぜ「特別の教科」なのか
4. 「特別の教科」道徳の目標について
5. 道徳教育と教育課程の関連について
6. 生徒の心理と道徳教育の関わり
7. 学校における道徳教育指導体制
8. 道徳教育の指導計画について
9. 道徳教育指導法(内容項目の詳細)
10. 道徳教育指導法(指導案の書き方)
11. 道徳教育指導法(ロールプレイ)
12. 保育所・幼稚園・小学校における道徳教育
13. 中学校・高等学校における道徳教育
14. 諸外国の道徳教育事情
15. 道徳教育の今日的な課題、まとめ

授業の方法

レジュメや資料を中心に授業を進める。発表、模擬授業、ロールプレイも取り入れる。

準備学修

過去に学校で学習した道徳の時間や道徳的な行事を思い返しておくこと。

幼いころの作文や文集があれば見ておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届けること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）」最新版

留意事項

授業中に配布した資料をもとに、毎回レポートを作成します

教員連絡先

mhorii@kaisei.ac.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（幼保）			17613	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育士			

授業の到達目標

教職の意義や教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例などから学校教育に期待される役割や今後の教員に求められる資質能力について学び、自らの適性を見出す。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し、調査、発表の機会をもつ。チームとして諸課題に対応する学校の在り方や教員の職務内容、服務上や身分上の義務について理解し、自ら目指す教師像を明確にもつようにする。

授業計画

1. 「教職概論」科目の特性と概要
2. 教職の意義
3. 幼稚園教育と小学校教育
4. 教員の歴史、女性と教職
5. 学校の組織と運営
6. 教員の職務内容
7. 教員に課せられる服務上・身分上の義務と身分保障
8. 学び続ける教員へ(教員のライフステージと研修制度)
9. 国際化・情報化と教員の役割
10. 学校における社会体験とキャリア教育
11. 様々な問題行動とカウンセリングマインド
12. 特別な支援を要する幼児・児童への対応
13. 学校(園)・地域・家庭の連携と役割
14. チーム学校の意義と実際について
15. 今後の教員に求められる資質能力(専門職としての教員)まとめ
を行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。またリフレクションシートや自修シート他の作成により自己の考えを深め、知識の定着を図る。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①リフレクションシートや課題レポートの提出を2回求め、講義中にフィードバックを行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

古橋和夫(編)『新訂 教職入門 未来の教師に向けて』2018年(株)萌文書林

参考図書

秋田喜代美、佐藤学編著 『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣アルマ 文部科学省『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

留意事項

保育士資格と幼稚園教員免許の併有による「保育教諭」としての要請も高まりつつある。教員を目指す学生としての意識を高くもって授業に臨んでもらいたい。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（小）			17613	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	市教委指導課指導主事			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を学ぶ。教員の資質能力と職務内容について身に付けることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

学校教育や教職の在り方について理解し、教員の資質や能力の向上、研修方法について学ぶ。さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の公教育の意図を考察する。

授業計画

1. 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義
2. 教員の服務と義務
3. 学校制度の変遷と教員養成
4. 公教育の目的と教員の役割
5. 学校の組織と運営における教員の役割
6. 教員の研修の意義と制度
7. 教員に求められる資質能力
8. 教科と教科外の指導
9. 教師力と教員の評価
10. 学校種間の連携、部活動指導での教員の役割について
11. 地域社会との連携における教員の役割
12. 教員の人権感覚
13. チーム学校の在り方と危機管理
14. 教職とボランティア活動の関係
15. 職業としての教職の在り方

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートやレポートにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

準備学修

指示された資料を事前に読んで理解したり、中等教育関連の情報を積極的に収集したりすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

文部科学省編「小学校学習指導要領解説（総則編）」最新版

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職中等	14185	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務		

授業の到達目標

特別活動は、「様々な集団の中で体験を通して人としての生き方を学ぶ」場である。教育課程における位置づけと意義を理解し「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点、他教科との往還的な関連、地域との連携など特別活動の特質を踏まえ教師として指導に必要な基礎的知識を身につける。
このクラスではKAISEIのI(知性)を養う。

授業の概要

特別活動の意義から学校の具体的な実践までを、歴史的な経緯を踏まえながら学習する。

1. 特別活動の歴史的な経緯を踏まえ意義や目標を理解する。
2. 特別活動の4つの内容である「学級活動(ホームルーム)」「生徒会活動(児童会活動)」「クラブ活動(部活動)」「学校行事」について理解する。
3. 特別活動の内容について、実践例などを参考にしながら、具体的に各指導計画をたて指導の在り方について考察する。

授業計画

1. 講義の進め方と概要を説明(オリエンテーション)
2. 教育課程における特別活動の位置づけ
3. 特別活動の歴史の変遷
4. それぞれの校種における特別活動の内容と目標
5. 特別活動の内容1(学級活動・ホームルーム)
6. 特別活動の内容2(生徒会・児童会活動)
7. 特別活動の内容3(学校行事)
8. 特別活動の内容4(クラブ活動・部活動)
9. 特別活動の指導計画の作成演習1(学級活動・ホームルーム)
10. 特別活動の指導計画の作成演習2(児童会・生徒会活動)
11. 特別活動の指導計画の作成演習3(学校行事)
12. 特別活動と教科とのかかわり
13. 特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱いについて
14. 特別活動と社会とのかかわり
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

- 各授業に関連する内容について「中学校・高等学校学習指導要領 解説 特別活動編」を熟読し予習する。
- 自分の小学校から高校までの特別活動について整理をする。
- 特別活動の実践例など日頃から新聞等を見て整理する。
- Webで参照すること

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説『特別活動編』」東山書店
必要に応じて資料を配付する。

参考図書

- ・他の校種の学習指導要領、特に「特別活動」
- ・学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】
東京書籍 国立教育研究所 教育課程研究センター
- ・「社会力を育てる」岩波新書 門脇厚司著
- ・「学校の社会力」朝日新聞 門脇厚司著など

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、現在の社会に目を向け、主体的に考え課題意識をもって捉える姿勢でのぞむこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職実践演習(中・高)	ET	14214	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
惣谷 美智子/堀 正人	選択	2	私立・公立中学校、私立高等学校教員 市教委指導課中学教育指導主事		

授業の到達目標

中学校又は高等学校の教師を目指す学生が、教職課程科目で学修した教科指導や生徒指導等の内容について実践することを通して、それらの知識及び技能を修得したことを確認する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、及びB(倫理)を養う。

授業の概要

中学校及び高等学校の教師として必要な知識や技能である(1)使命感・責任感・資質に関する知識、(2)社会性や対人関係能力、(3)教科の指導力について十分に修得できているかどうかをグループ討論、ロールプレイング、模擬授業で確認していく。また、実際の現場を見学することで、修得した知識・技能がどのように活用されているかをまとめる。

授業計画

1. イントロダクション—これまでの学習や教育実習について(1)～講義、発表
2. 教師としての使命感や責任感、資質について(1)～講義
3. 教師としての使命感や責任感、資質について(2)～グループ討論
4. 教師としての社会性や対人関係能力について(1)～講義とグループ討論
5. 教師としての社会性や対人関係能力について(2)～ロールプレイング
6. 生徒の理解や学級経営について(1)～討論
7. 生徒の理解や学級経営について(2)～グループ討論
8. 学級経営案の作成とグループ討論
9. 学校現場の見学(1)～見学・調査
10. 学校現場の見学(2)～教職経験者の講話とグループ討論
11. 教科の指導力について(1)～講義
12. 教科の指導力について(2)～グループ討論
13. 教科の指導力について(3)～模擬授業とその振り返り
14. 資質能力の確認・まとめ(1)～小論文とアンケート
15. 資質能力の確認・まとめ(2)～講評

授業の方法

講義の中でグループ討論を行う。ロールプレイング、模擬授業も行う。

う。

準備学修

今回のテーマに関するハンドアウトをあらかじめ配布するので、それを読み、その中に示されている課題を仕上げてくること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

適宜、ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

教職に対する情熱をもって授業に参加・貢献する誠実な態度が必要である。実際の中学校を訪問し随時研修を行うので、平素から服装等に配慮すること。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp
mhori@kaisei.ac.jp

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論	教職中等		14217	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	公立中学校教員			

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学ぶ。この講座ではKAISEIパーソナリティのA（自律）でコミュニケーション能力を養い、事例研究の実践でK（思いやり：傾聴力）とI（知性）状況把握力を高める訓練をする。

授業の概要

教科書（文部科学省「生徒指導提要」）を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、教育相談の手法を学び、進路指導、キャリア教育も生徒指導の視点から考察する。

授業計画

1. 生徒指導の意義と原理(集団指導、個別指導の方法原理)
2. 学校運営と生徒指導の関連
3. 教育課程と生徒指導(教科、道徳教育)
4. 教育課程と生徒指導(総合的な学習の時間、特別活動)
5. キャリア教育と生徒指導の関わり
6. 生徒の心理分析と理解の方法
7. 学校における生徒指導体制(組織、年間計画、指導体制)のありかた
8. 教育相談の進め方(カウンセラー、専門機関)
9. 生徒指導の進め方(支援体制、関係機関との連携)
10. 生徒指導における教職員の役割
11. 進路指導における生徒指導について
12. 課題別生徒指導の考察
13. 生徒指導に関する法制度について
14. 生徒指導短縮事例研究(前半)
15. 生徒指導短縮事例研究(後半)、まとめ

授業の方法

レジュメに従って授業を行う。また、配布した資料をもとに事例研究を行い考察をする。

準備学修

生徒指導提要（文部科学省編）、13歳のハローワーク（村上龍著）

を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。

テキスト

文部科学省編「生徒指導提要」ぎょうせい出版

参考図書

村上龍 著「13歳のハローワーク」幻冬社

留意事項

授業中に配布した資料を基に考察し、毎回レポートを作成する。臨地研修として、1回は近隣の中学校を訪問する予定です。平素から服装等に配慮すること

教員連絡先

mhorikaisei.ac.jp

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究(中等)	教職中		14229	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子/堀 正人	選択	1	市教委指導課教育実習担当主事			

授業の到達目標

教育実習の事前及び事後の指導を通して、教育の社会的役割を認識し、教職への積極的な態度を養う。教育実習は、教職課程のいわば総仕上げとしての重要な意味をもつものである。大学で学んだ教育理論を教える立場に立つことによって、より深いものとして身につけ、学校という教育現場において、教育実践を通して学校教育についての理解を深め、教職への自らの決意と適性を確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びE（倫理）を養う。

授業の概要

教育実習の実施計画に基づき、実習校において実習を行うための事前及び事後指導を行う。また、実習校における実習期間中に、本学の指導教員が実習校を訪問し、研究授業等の指導にあたる。

授業計画

1. 教育実習の目的、教育実習の心構え、実習前の準備
2. 教育実習の展開
3. 教育実習の内容(1)
4. 教育実習の内容(2)
5. 教育実習の実際(1)
6. 教育実習の実際(2)
7. 授業の評価と実習のまとめ
8. 教育実習事後指導

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

- ・テキストについて、前時に指示された箇所を読んでおくこと。
- ・毎回、指示されたテーマについて各自が発表を行うので、その準備をしておくこと。
- ・中学校・高等学校の学習指導要領をもう一度よく読むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき、20点減点する。遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『【新版】英語科教育実習ハンドブック』（大修館）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』最新版
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』最新版

必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、レポート、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

mhorikaisei.ac.jp
myosino@kaisei.ac.jp